

別表（第4条関係）

日常検査の結果と対応等

検査結果		原因及び対応等
色	赤水が出て、 タオル等が着色する。 (赤褐色～ 黒褐色)	鉄さびの流出 ・老朽化した鉄管が原因 (鉄濃度が 0.3 ミリグラム／リットル以上になると水に色が付着する。) (対応) ・配管の使用材質を確認する。 ・水質検査を行う。 ・常に赤水が出る場合は、配管等の布設替えを行う。
		鉄細菌の繁殖 ・鉄細菌の配管内での増殖が原因 (対応) ・塩素消毒を強化（遊離残留塩素濃度：0.5 ミリグラム／リットル以上）する。
		マンガンの流出 ・水に含まれているマンガンが遊離残留塩素で二酸化マンガンまで十分に酸化されないことが原因 (マンガン濃度が 0.05 ミリグラム／リットル以下の微量であっても原因となる。) (対応) ・遊離残留塩素濃度を確認し、塩素消毒を強化する。 ・必要に応じて水質検査を行う。
	青 水	銅の溶出 ・銅濃度が約 100 ミリグラム／リットルになると水に色が付着する。 (対応) ・洗面器具やタオルの変色（青色）を確認し、変色がある場合は、必要に応じて水質検査を行う。
		光の散乱 ・象牙色（アイボリー）の水槽に水を入れると光の散乱により青色に見えることがある。 (対応) ・受水容器及び観察場所を変更して再度確認する。
	黒 水	マンガンの流出 ・配管内に付着したマンガンが水流の急激な変化によりはく離した可能性がある。 (対応) ・水質検査を行う。
	白 水	亜鉛の溶出 ・使用されている配管の材質（亜鉛めっき鋼管）の溶出の可能性がある。 (対応)

		・配管材質を確認し、亜鉛仕様の配管が使用されている場合は、水質検査を行う。 ・常に白水が出る場合は、配管等の布設替えを行う。
濁り	白濁	微細な気泡の発生 ・給水管に吸い込まれた空気又は水道水に溶け込んだ空気が微細な気泡となった可能性がある。 (対応) ・水道水を透明な容器に入れ、しばらく放置し、下の方から白い濁りがなくなって透明になることを確認する。
	青（緑）濁	緑藻類の発生 ・受水槽等内での緑藻類の繁殖が原因 (対応) ・受水槽等内の点検を行い、必要があれば清掃を行う。
異物	蒸発後の白色残留物	ミネラル分の残留 ・蒸発等が繰り返される容器の底部等に、水に含まれているカルシウムやマグネシウムなどが乾固して、白い付着物となることが原因 (対応) ・クエン酸で除去する。
	洗面所等の淡紅色	色素産生微生物の増殖 ・空気中の浮遊細菌が、洗面台、容器等で増殖し、ピンク色に着色することが原因（脱塩素の浄水器を使用することによって、この現象を助長することがある。） (対応) ・給水栓水の残留塩素濃度を確認する。 - 脱塩素の浄水器を使用することによって、この現象を助長することがある。 ・水回りの清掃を行う。
	昆虫又は幼虫	設備の不備 ・受水槽の不備の可能性がある。 (対応) ・受水槽の防虫網又はオーバーフロー管を点検する。
味	収れん味（思わず口をすぼめたくなる苦味）	亜鉛の溶出 ・使用されている配管の材質（亜鉛めっき鋼管）の可能性がある。 （亜鉛濃度 5 ミリグラム／リットル以上で収れん味を感じる。） (対応) ・配管材質を確認し、亜鉛仕様の配管が使用されている場合は、水質検査を行う。 ・常に白水が出る場合は、配管等の布設替えを行う。
	金気味	金属類の溶出 ・使用されている配管の材質（鉄、銅など）の金属の溶出が原因 (対応) ・配管材質を確認し、原因と考えられる金属の水質検査を行う。

臭 い	金気臭	鉄分の溶出 ・使用されている配管の材質（鉄）の溶出が原因 （鉄濃度 0.5 ミリグラム／リットル以上で臭いを感じる。） （対応） ・配管材質を確認し、原因と考えられる金属の水質検査を行う。
そ の 他	泡立ち	汚水等の混入 ・工場排水、生活排水等の混入が原因 （対応） ・受水槽等の亀裂の点検を行う。 ・改修工事などを行った場合は、配管の誤接合を点検する。